



ECO₂ プランふじいでら
藤井寺市地球温暖化対策推進実行計画

平成 17 年度実績報告
(2005 年度)

平成 19 年 3 月
藤 井 寺 市

目 次

(1) 総排出量	1
(2) 目標に対する進捗状況	1
(3) 発生源別の状況	2
(4) 項目ごとの経年変化	3
(5) 各課室・施設での取組状況	4
(6) グリーン購入方針による取組状況	5
(7) 市の取組	6

藤井寺市地球温暖化対策推進実行計画“ECO₂(エコツー)プランふじいでら”の最終年度(目標年度)である2005年度(平成17年度)における温室効果ガス排出量を集計した。

また、各課室・施設での取り組み状況、グリーン購入製品の調達状況をあわせてとりまとめた。

対象期間：2005年(平成17年)4月～2006年(平成18年)3月(12か月)

目標：温室効果ガス排出量を2005年度(平成17年度)において、1998年度(平成10年度)から5%削減する。

(1) 総排出量

目標年度である平成17年度の市全体における温室効果ガス排出量は、基準年度である1998年度(平成10年度)と比較して、表1及び図1のとおり約0.6%の削減であった。

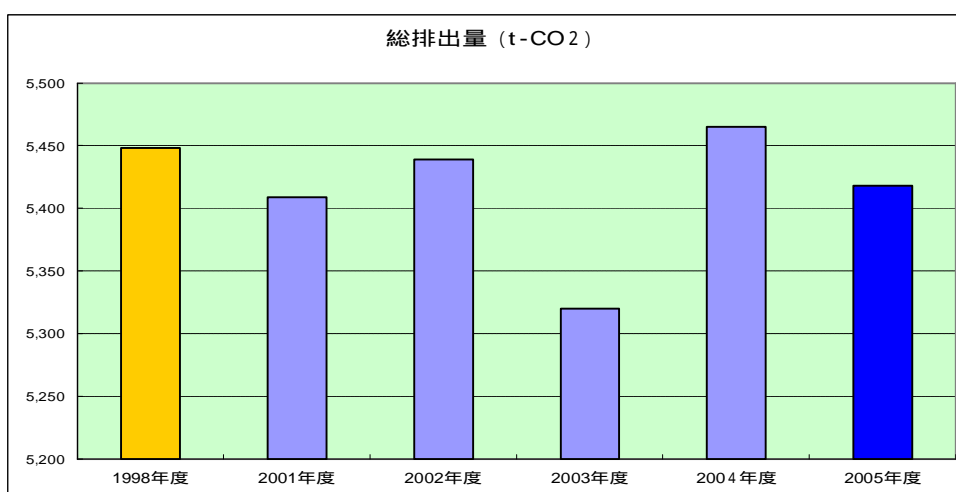
これは、計画の全体目標である5%削減には至らないものの、北條雨水ポンプ場や土師ノ里自転車保管所など新たな公共施設が稼働を始めたなかにおいて、増加ではなく、少しではあるが削減を達成したことで一定の評価ができるものと考えている。

表1 全体排出量の年度比較

年度	総排出量 (t-CO ₂)	1998年度を 基準とした割合	増減率
1998年度	5,448.2		
2001年度	4,944.4	90.8%	-9.2%
2001年度 (推定)	5,408.9	99.3%	-0.7%
2002年度	4,957.5	91.0%	-9.0%
2002年度 (推定)	5,438.8	99.8%	-0.2%
2003年度	5,319.8	97.6%	-2.4%
2004年度	5,464.8	100.3%	0.3%
2005年度	5,418.0	99.4%	-0.6%

推定：市民総合会館が1998年度と同様に業務を行った場合の推定値

図1 全体排出量の年度比較



(2) 目標に対する進捗状況

エネルギー等の使用量削減に関する目標との比較は、表2のとおりである。電気使用量、笑気ガ

ス(1)を除くすべての項目において目標を達成することができた。主なものとして、都市ガスは8.7%の削減、公用車の燃料はガソリンで23.5%、水道使用量は17.8%、紙使用量は8.0%それぞれ削減している。

1 笑気ガス：市民病院で手術時に使用する麻酔剤、26.7%増加している。

表2 エネルギー等の使用量削減に関する目標に対する進捗状況

項目	平成 17 年度 (2005 年度) における目標	細項目	平成 17 年度 (2004 年度) 結 果
電気	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 5 %削減する。		4.8%増加
都市ガス	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 5 %削減する。		8.7%削減
A 重油	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 4 %削減する。		10.8%削減
その他燃料	極力削減に努める。	ガソリン	87.4%削減
		灯油	49.3%削減
		軽油	66.8%削減
		LPG	35.7%削減
公用車の使用	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 燃料使用量及び走行距離を 約 10%削減する。	ガソリン	23.5%削減
		軽油	30.2%削減
		走行距離	15.4%削減
水道使用量	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 5 %削減する。		17.8%削減
紙使用量 (1)	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 5 %削減する。		8.0%削減
笑気ガス	極力削減に努める。		26.7%増加

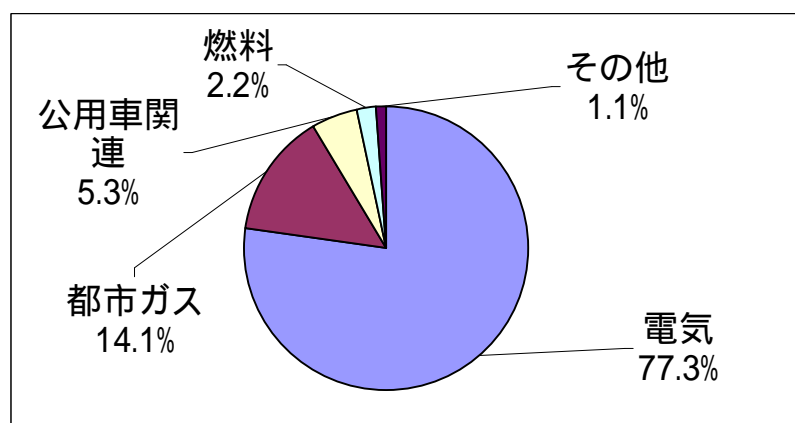
1) 紙使用量については、平成 15 年度より集計方法を変更し、基準年度の数値も同方法により算出している。

(3) 発生源別の状況

温室効果ガス排出量は、図 2 に示すように、電気使用に係るものが全体排出量の 8 割弱と大きな割合を占めている。そのため、他の項目では十分削減目標を達成しているにもかかわらず、全体として削減量が少なく目標が達成できなかった。

温室効果ガスの大きな削減には電気使用量を削減しなければならないことを示している。

図 2 発生源別の温室効果ガス排出割合

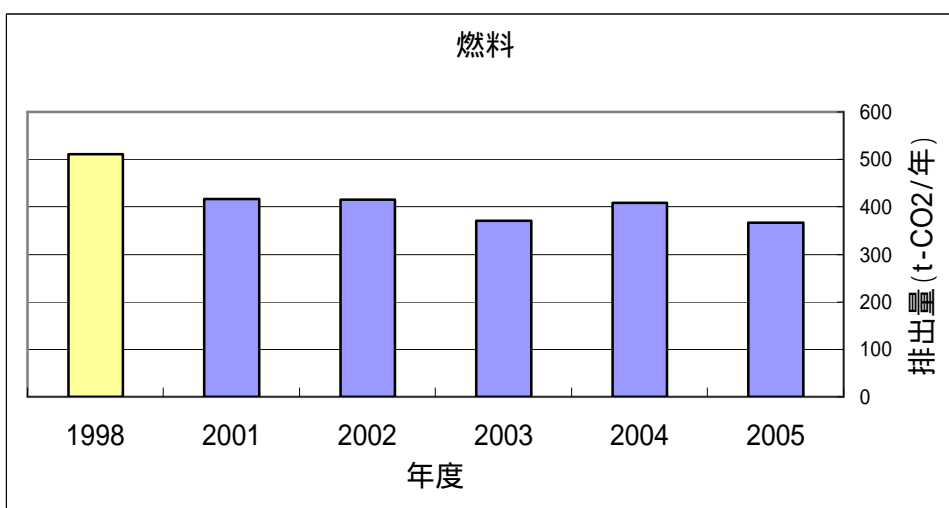
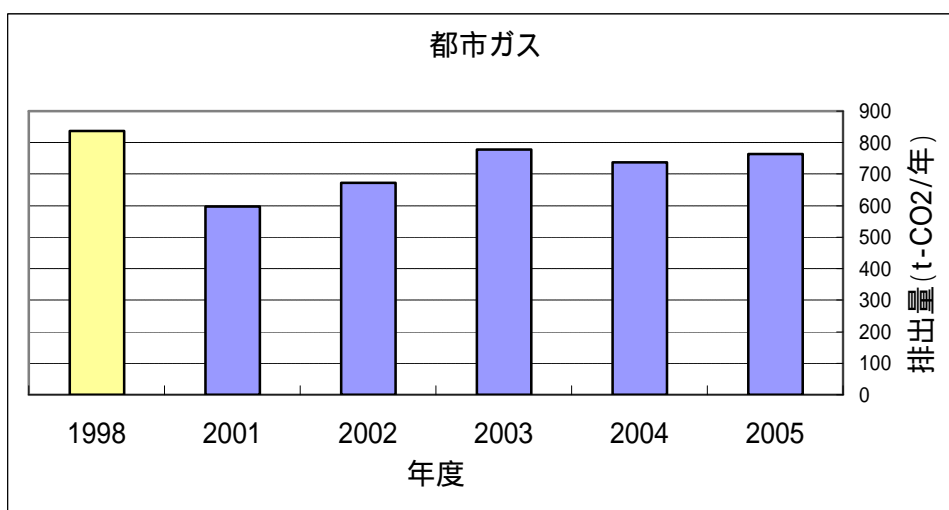
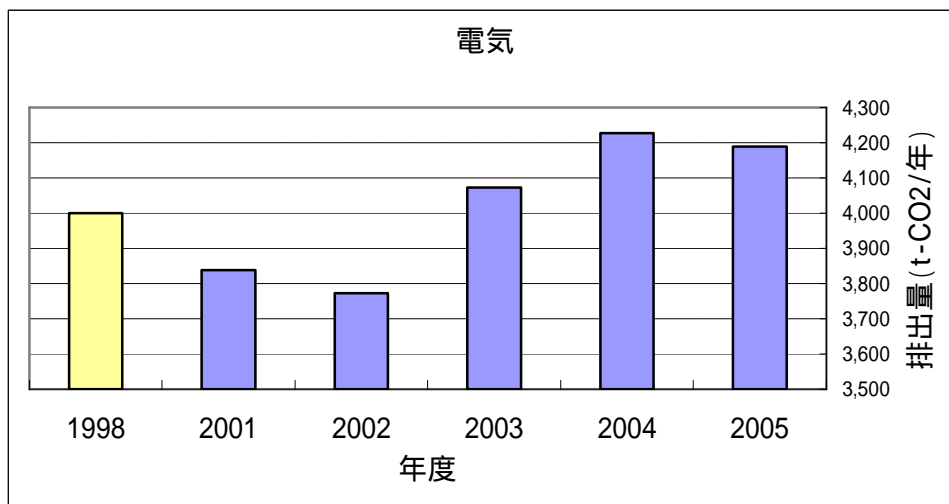


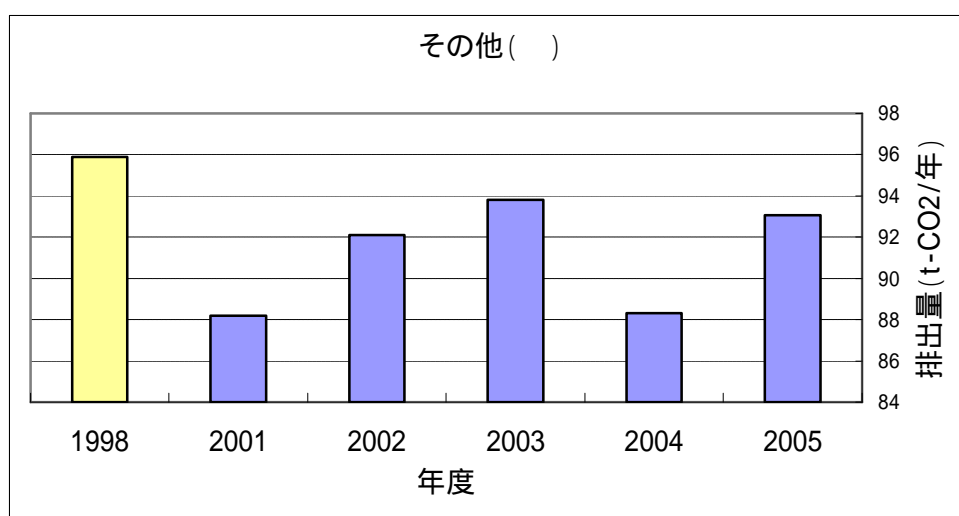
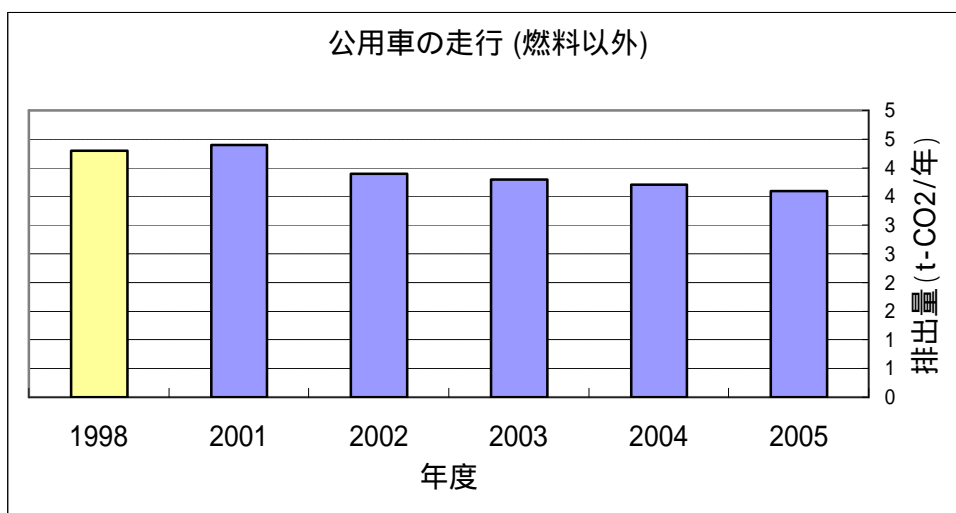
(4) 項目ごとの経年変化

各エネルギー等の使用による排出量の経年変化は、図3のとおりである。

電気以外のすべての項目は目標を達成しているが、最も排出割合の高い電気使用による排出量は、逆に削減目標値分ほど増加した。増減の相殺により総排出量は前述のとおり約0.6パーセントの削減にとどまる結果となった。

図3





「その他」は自動車用エアコンのフロン、笑気ガス

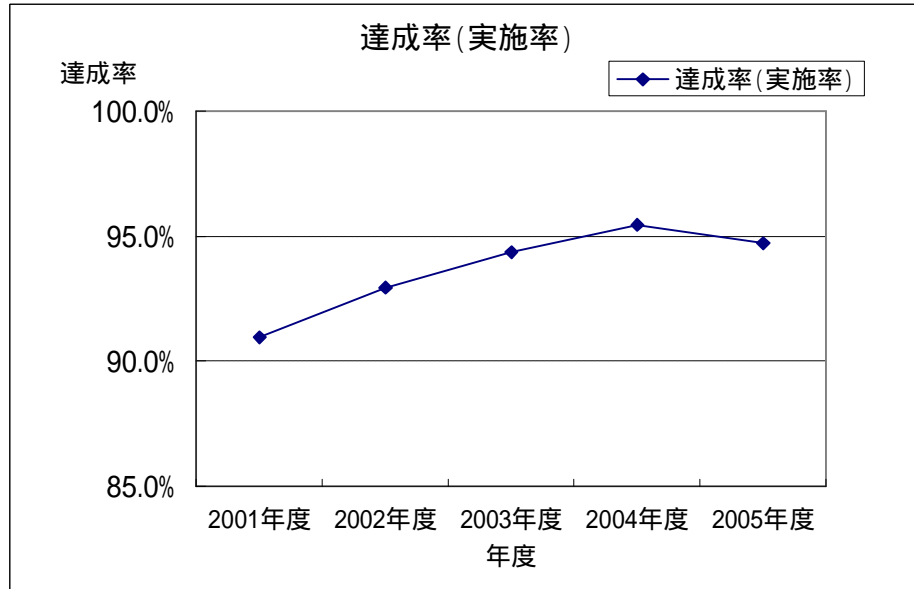
(5) 各課・室での取組状況

各課・室がそれぞれ部署において実施可能として掲げた取り組みの達成状況の集計は以下のとおりである。計画実施当初と比較すると取組達成率が増加しているが、近年は95パーセント前後で推移している。取組項目数にも大きな変化はみられない。

表3

年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
「月別実施項目数合計」 / 「月別取組予定項目数合計」	103,154 / 113,401	114,702 / 123,431	115,415 / 122,307	119,652 / 125,344	113,896 / 120,237
達成率(実施率)	91.0%	92.9%	94.4%	95.5%	94.7%

図 4



(6) グリーン購入方針による取組状況

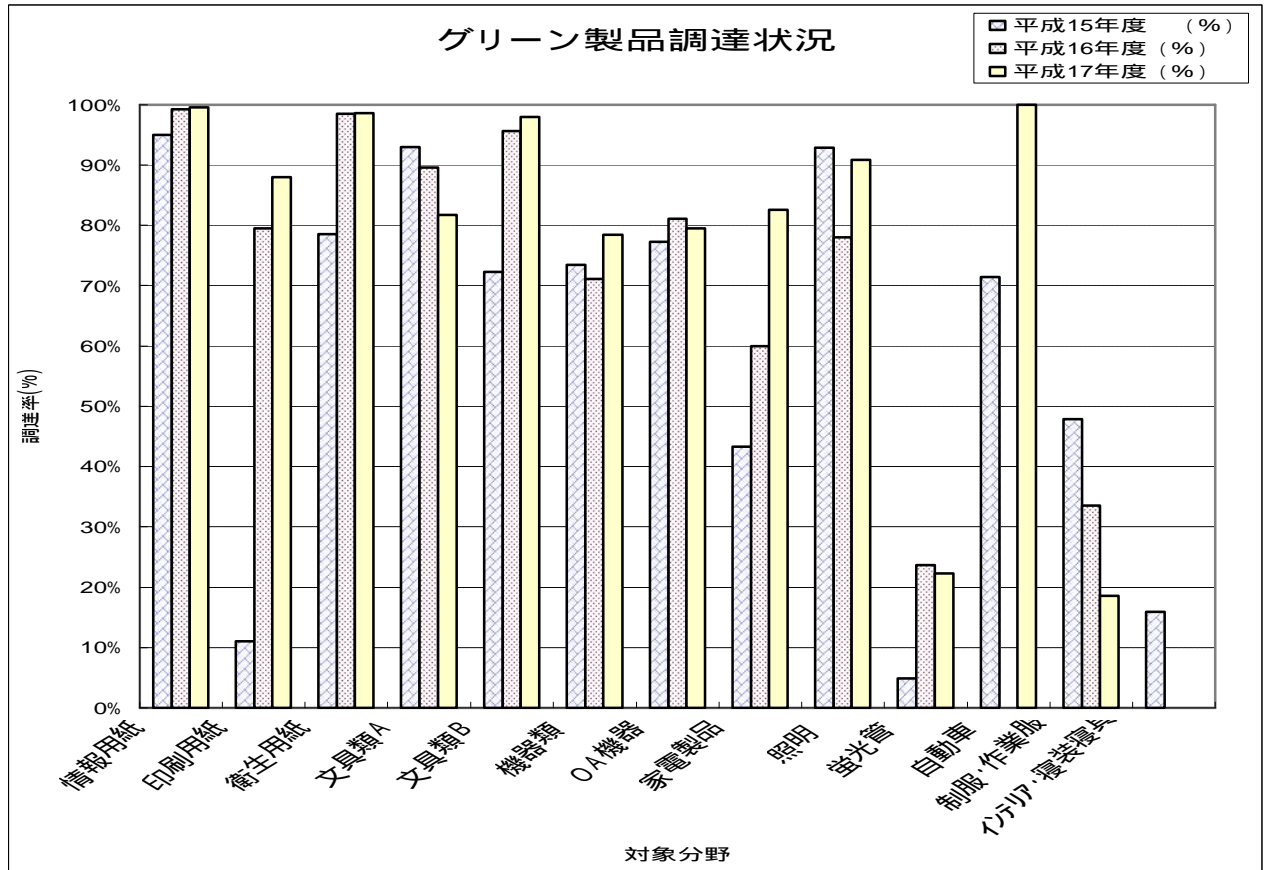
平成 15 年 3 月に策定された「藤井寺市地球にやさしい物品等の調達(グリーン購入)方針」に基づくグリーン製品の導入状況は以下のとおりである。少しずつだが取組が浸透しつつあり、調達率も概ね上昇しており、ほぼ半数の対象分野の品目において、すでに目標を達成しており、もしくはほぼ達成している状況にある。

ただし、「蛍光管」においては、グリーン製品と従来製品との価格差が約 3 倍あることから調達率は低く推移している。

表 4

対象分野	平成15年度	平成16年度	平成17年度	目標達成の有無	H17目標
	(%)	(%)	(%)		
情報用紙	95.0%	99.3%	99.6%	ほぼ達成	100%
印刷用紙	11.0%	79.5%	88.0%	ほぼ達成	90%以上
衛生用紙	78.5%	98.5%	98.5%	ほぼ達成	100%
文具類A	93.0%	89.6%	81.7%	未達成	100%
文具類B	72.3%	95.7%	97.9%	ほぼ達成	100%
機器類	73.4%	71.1%	78.5%	未達成	90%以上
OA機器	77.3%	81.1%	79.5%	未達成	100%
家電製品	43.3%	60.0%	82.6%	達成	70%以上
照明	92.9%	78.0%	90.9%	未達成	100%
蛍光管	4.9%	23.7%	22.3%	未達成	40%以上
自動車	71.4%	0%	100%	達成	100%
制服・作業服	47.9%	33.6%	18.6%	未達成	70%以上
インテリア・寝装寝具	15.9%	0%	0%	未達成	20%以上

図 5



(7) 市の取組

平成 17 年度から平成 19 年度末まで、財団法人 省エネルギーセンターが実施する全額補助事業として「省エネナビ無償貸与」事業に採択された。本庁など 5 箇所に省エネルギーの状況が目でわかる「省エネナビ」という装置を設置し、常に電気の使用状況を把握でき、来場する市民への啓発としても役立っている。本事業は 100% 補助の事業であり、市にコストをかけることなく取り組むことができる。なお、事業実施期間経過後においては装置は無償で譲渡される。

設置場所は、本庁内 1 階フロア、2 階フロアに各 1 台、保健センター、図書館、体育館の計 5 箇所である。

写真



